

# 史跡斎宮跡

平成28年度現状変更緊急発掘調査報告

平成30(2018)年3月

明 和 町



## 序

史跡斎宮跡を中心とした、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく環境整備で、拠点施設として計画された「いつきのみや地域交流センター」のオープンから1年が経ちました。昨年の9月30日と10月1日には、文化庁主催の「日本の技体験フェア」が開催され、伝統的な文化財を修理・保存する技術を継承している匠が集まりました。会場となった「いつきのみや地域交流センター」と「さいくう平安の杜」では、匠の技を見学したり、体験したりする多くの人にぎわい、地域の人と来場者が互いに交流することができました。

また、本年1月には史跡斎宮跡とも関係が深い「県指定史跡坂本古墳群」の公園もオープンし、本格的な活用をスタートさせました。多くの文化遺産を擁する明和町に来訪していただいた方が、史跡斎宮跡をはじめとした日本遺産や、その他の文化財を周遊して歴史を体感していただけるよう、これからも周辺の環境整備を行い、ひいては更なる史跡の活用と町の活性化につなげていかなければならぬと考えています。

さて、本報告書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い発掘調査が必要であった17件の結果についてまとめたもので、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

平成30（2018）年3月

三重県多気郡明和町  
町長 中井幸充

## 例　言

- 1 本書は、平成28（2016）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 2 本書に掲載した調査のうち、第187-3・7・10・13・15・16・17次調査は事業者が費用負担したが、それ以外については、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 3 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 4 調査区名の表示方法（例：6 AL 1 3）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 5 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 6 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』（2014）を基準とした。
- 7 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。

S A : 柱列・堀	S B : 掘立柱建物	S D : 溝	S E : 井戸	S F : 道路
S K : 土坑	S H : 壴穴建物	S X : 墓・不明遺構		
- 8 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 9 本書の執筆は、穂積裕昌・宮原佑治（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、乾哲也（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は穂積・乾が担当した。なお、執筆分担は目次に記した。

## 目　次

I 前言 .....	(穂積) 1	9 第187-9次調査 .....	(穂積) 15
II 調査報告 .....		10 第187-10次調査 .....	(穂積) 16
1 第187-1次調査 .....	(穂積) 3	11 第187-11次調査 .....	(穂積) 16
2 第187-2次調査 .....	(穂積) 3	12 第187-12次調査 .....	(穂積) 17
3 第187-3次調査 .....	(穂積) 4	13 第187-13次調査 .....	(穂積) 19
4 第187-4次調査 .....	(穂積) 4	14 第187-14次調査 .....	(穂積) 21
5 第187-5次調査 .....	(穂積) 5	15 第187-15次調査 .....	(穂積) 21
6 第187-6次調査 .....	(宮原) 6	16 第187-16次調査 .....	(穂積) 22
7 第187-7次調査 .....	(穂積) 13	17 第187-17次調査 .....	(穂積) 23
8 第187-8次調査 .....	(穂積) 14	付編 史跡現状変更等許可申請 .....	(乾) 27

## 表・挿図目次

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移	第4表 第187次調査 出土遺物一覧表（2）
第2表 第187次調査 遺構一覧表	第5表 平成28年度現状変更等許可申請一覧
第3表 第187次調査 出土遺物一覧表（1）	
第1図 発掘調査位置図	第4図 第187-2次調査区位置図
第2図 第187-1次調査区位置図	第5図 第187-2次調査 遺構平面図・土層図
第3図 第187-1次調査 遺構平面図・土層図	第6図 第187-3次調査区位置図

- 第7図 第187-3次調査 遺構平面図・土層図  
 第8図 第187-4次調査区位置図  
 第9図 第187-4次調査 遺構平面図・土層図  
 第10図 第187-4次調査 遺物実測図  
 第11図 第187-5次調査区位置図  
 第12図 第187-5次調査 遺構平面図・土層図  
 第13図 第187-6次調査区位置図  
 第14図 第187-6次調査 遺構平面図・土層図  
 第15図 第187-6次調査 出土状況図・土層図  
 第16図 第187-6次調査 出土遺物実測図（1）  
 第17図 第187-6次調査 出土遺物実測図（2）  
 第18図 第187-6次調査 出土遺物実測図（3）  
 第19図 第187-6次調査 出土遺物実測図（4）  
 第20図 第187-7次調査区位置図  
 第21図 第187-7次調査 遺構平面図・土層図  
 第22図 第187-7次調査 遺物実測図  
 第23図 第187-8次調査区位置図  
 第24図 第187-9次調査区位置図  
 第25図 第187-9次調査 遺構平面図・土層図  
 第26図 第187-9次調査 遺物実測図  
 第27図 第187-10次調査区位置図
- 第28図 第187-10次調査 遺構平面図・土層図  
 第29図 第187-11次調査区位置図  
 第30図 第187-11次調査 遺構平面図・土層図  
 第31図 第187-11次調査 遺物実測図  
 第32図 第187-12次調査区位置図  
 第33図 第187-12次調査 遺構平面図  
 第34図 第187-12次調査 遺構上層図  
 第35図 第187-13次調査区位置図  
 第36図 第187-12次調査 遺物実測図（1）  
 第37図 第187-12次調査 遺物実測図（2）  
 第38図 第187-13次調査 遺構平面図・土層図  
 第39図 第187-14次調査区位置図  
 第40図 第187-14次調査 遺構平面図・土層図  
 第41図 第187-15次調査区位置図  
 第42図 第187-15次調査 遺構平面図・土層図  
 第43図 第187-16次調査区位置図  
 第44図 第187-16次調査 遺物実測図  
 第45図 第187-16次調査 遺構平面図・土層図  
 第46図 第187-17次調査区位置図  
 第47図 第187-17次調査 遺構平面図・土層図

## 写真図版

- 写真図版1 第187-1次調査区全景（北から）  
 写真図版2 第187-1次調査区南側（北から）  
 写真図版3 第187-2次調査区全景（東から）  
 写真図版4 第187-3次調査区全景（南から）  
 写真図版5 第187-4次調査区全景（北西から）  
 写真図版6 第187-5次調査区全景（西から）  
 写真図版7 第187-6次調査 北側調査区（南から）  
 写真図版8 第187-6次調査 北側調査区カマド出土状況  
 写真図版9 第187-6次調査 南側調査区（北から）  
 写真図版10 第187-6次調査 南側調査区SD10899～10901  
     等掘削状況  
 写真図版11 第187-7次調査 西側調査区全景（北から）

- 写真図版12 第187-7次調査 東側調査区全景（東から）  
 写真図版13 第187-8次調査区全景（西から）  
 写真図版14 第187-9次調査区全景（東から）  
 写真図版15 第187-10次調査区全景（南から）  
 写真図版16 第187-11次調査 東側調査区（南から）  
 写真図版17 第187-12次調査区全景（北から）  
 写真図版18 第187-12次調査区南側（北から）  
 写真図版19 第187-13次調査 北側調査区（南から）  
 写真図版20 第187-14次調査区全景（西から）  
 写真図版21 第187-15次調査区全景（北から）  
 写真図版22 第187-16次調査区全景（東から）  
 写真図版23 第187-17次調査区東半（南から）

# I 前 言

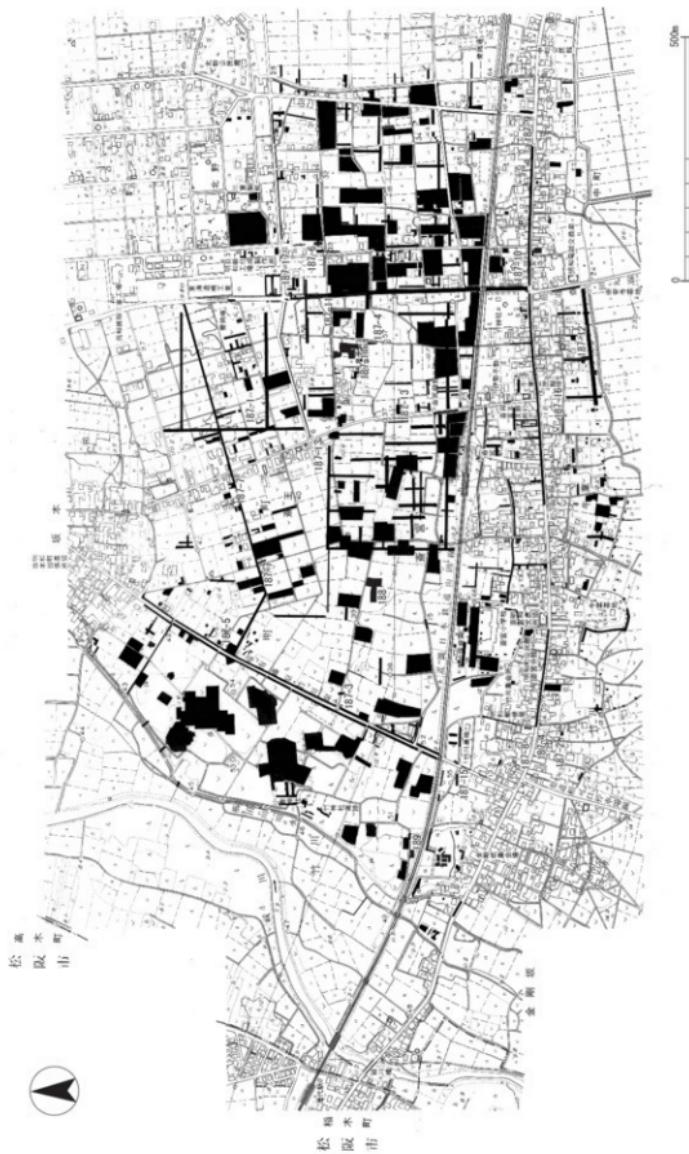
史跡斎宮跡では、平成28年度に53件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

内訳をみると、個人住宅の新築や改築、下水管の埋設、排水路の改修、道路側溝の付け替えといった史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡整備（いつきのみや地域交流センター建設）などの歴史的風致維持向上計画の事業（以下、歴まち整備事業）に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は17件で、調査面積の合計は751.9m<sup>2</sup>である。

第187-1・2・5・6・8・9・12・14・16次は個人住宅の新築・改築に伴うもので、建物の基礎や水道管、浄化槽の埋設などに伴って調査を行なった。このうち第187-6次は170.8m<sup>2</sup>、第187-12次調査は280m<sup>2</sup>という比較的まとまった面積の調査となった。一方、第187-4・7・11・13次は歴まち事業の関連事業、第187-3次は総務省の補助金を受けたWi-Fi整備、第187-10次は道路案内標識建替、第187-15次は県道の改修、第187-17次は下水道管布設等に伴う調査であった。これらはいずれも、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m <sup>2</sup> )	うち補助金調査件数	同調査面積 (m <sup>2</sup> )
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	58	15	352.5	8	198
28	53	17	751.9	8	532.9
計	1,703	444	68,777.2	270	26,249.8

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図 (1:10,000)

## II 調査報告

### 1 第187-1次調査 (6AP7)

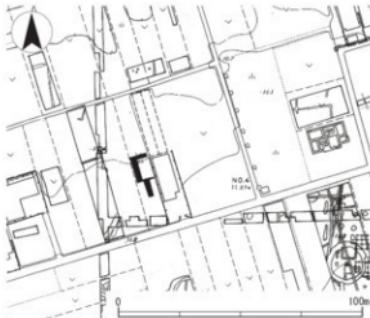
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2887番2

原 因 住宅建築

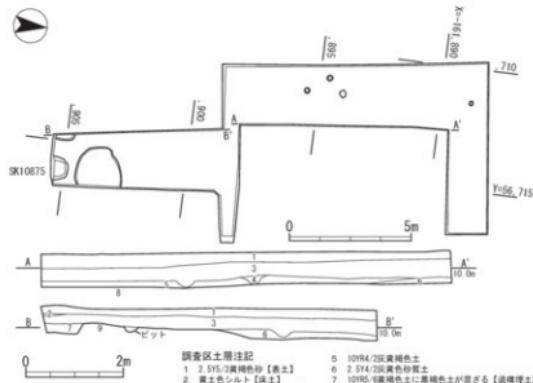
調査期間 平成28年5月13日～5月31日

調査面積 53.0m<sup>2</sup>

調査概要 住宅の改築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡中央北部に位置する住宅地である。調査区は、東西7m、南北18mの範囲内に最大幅2.8mのL字状トレチ2か所を連結する形状で設定した。基本層序は、上面から表土、包含層と考えられる黒褐色粘質土、浅黄色粘質土（地山）で、部分的に包含層の下に灰黄色砂質土が入る。地表から深さ約0.3～0.6m（標高約9.7～10.1m）の地山上面で遺構検出を行い、土坑1基とピット3基を確認した。調査区の南端で確認したSK10875は、略方形とみられるが調査区外に延びるため、全体形状は不明である。出土遺物は、少量の土器が出土した程度であった。



第2図 第187-1次調査区位置図 (1:2,000)



第3図 187-1次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

### 2 第187-2次調査 (6A113)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏241番

原 因 住宅建築

調査期間 平成28年5月16日

調査面積 2.1m<sup>2</sup>

調査概要 住宅の新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南西部に位置する住宅地である。

調査区は、長さ2m、幅1.05mの長方形である。基本層序は、上面から表土、盛土である暗褐色粘質土、包含層と考えられる黒褐色粘質土、褐色粘質土、橙色粘質土（地山）である。地表面から深さ約0.7m



第4図 第187-2次調査区位置図 (1:2,000)

(標高13.1m) の地山上層面で遺構検出を行い、ピット1基を確認した。出土遺物はなかった。



第5図 第187-2次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

### 3 第187-3次調査(6AJ9)

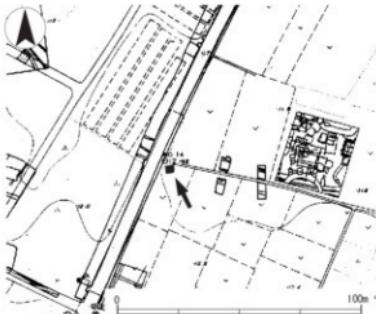
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字東裏317-1

原 因 Wi-Fi整備

調査期間 平成28年6月15日

調査面積 2.2m<sup>2</sup>

調査概要 明和町の史跡整備の一環である、観光・防災Wi-Fiステーション整備工事に伴って事前に行った発掘調査である。調査地は史跡西部に位置する。調査区は1.5m四方で、遺構は地表面から深さ約0.7m(標高11.5m)の地山上層面で検出を行い、土坑SK10876を確認したが、攪乱のため遺存状況は悪い。埋土から陶器山茶碗や土器師が出土した。



第6図 第187-3次調査区位置図(1:2,000)



第7図 第187-3次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

### 4 第187-4次調査(6AQ9)

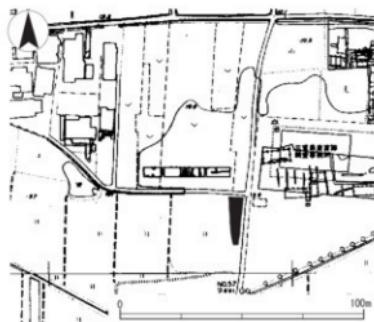
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字下園2810-1

原 因 史跡整備

調査期間 平成28年6月27日～7月1日

調査面積 80.4m<sup>2</sup>

調査概要 「明和町歴史的風致維持向上計画」にかかる事業(歴まち整備事業)の一環として、史跡整備を行うにあたり、事前に地下遺構の状況を確認するために実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部に位置する。調査区は、長さ19.5m、最大幅5.6m、最小幅2.0mの台形プランである。基本層序は上面から暗褐色土(表土)、明黄褐色シルト(地山)で、遺構の検出は地表面から深さ

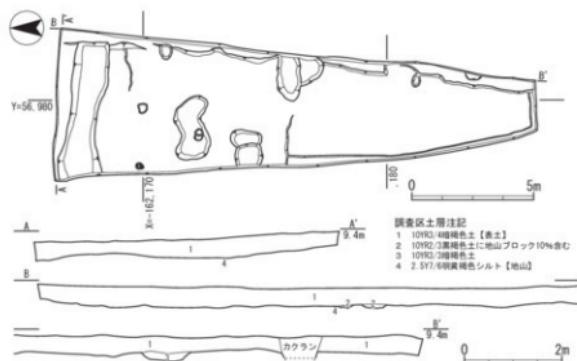


第8図 第187-4次調査区位置図 (1:2,000)

約0.4m（標高9.3m）の地山上面で行った。遺構は柱穴の可能性のあるピットなどを確認した。遺物は、擾乱層内から須恵器杯（1）が出土し、その他に近世以降の瓦、陶磁器が出土した。



第10図 第187-4次調査 遺物実測図 (1:4)



第9図 第187-4次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

## 5 第187-5次調査 (6AK6)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字塚山3276-13

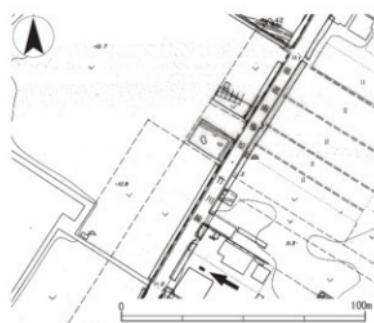
原 因 凈化槽埋設

調査期間 平成28年7月19日

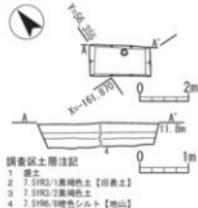
調査面積 2.1m<sup>2</sup>

調査概要 凈化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡西部に位置する住宅地である。

調査区平面は、幅約1.05m、長さ約2mの長方形である。基本層序は、上面から盛土、旧表土である黒褐色壤土、橙色粘質土（地山）である。遺構は、地表面から深さ約0.7mの地山上面で検出を行い、柱穴と考えられるピット1基を確認した。出土遺物はなかった。



第11図 第187-5次調査区位置図 (1:2,000)



第12図 第187-5次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

## 6 第187-6次調査(6AS8)

**調査場所** 多気郡明和町大字斎宮字西前沖2634番、  
2634番1、2657番1

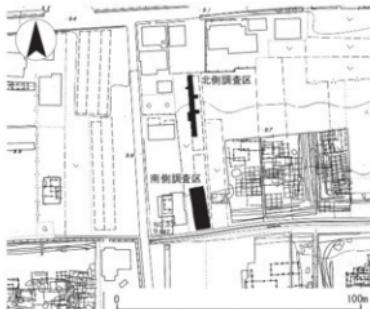
**原 因** 住宅増築

**調査期間** 平成28年8月4日～9月16日

**調査面積** 170.8m<sup>2</sup>

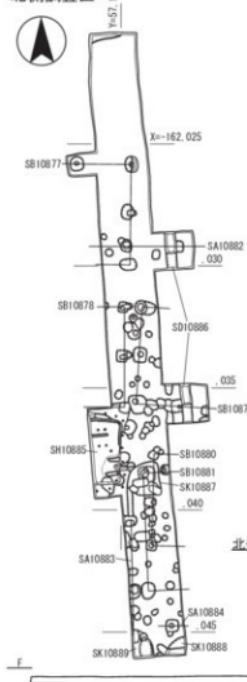
**調査概要** 住宅増築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡・北東部に位置する畠地である。調査区は南北で2箇所に設け、北側調査区は幅2m、長さ25.5mの溝状で、遺構を確認するため、東西に4箇所抵張している。南側調査区は幅6.2m、長さ17.8mである。

**北側調査区** 基本層序は上面から表土、暗褐色土(包含層)、黄褐色シルト(地山)で、遺構は包含層および地山を掘り込んでいる。遺構の検出は、地表面から深さ約0.3m(標高9.6m)の地山上面で行い、堅穴建物や掘立柱建物、樋、溝、土坑、ピットを確認した。SH10885は南東部にカマドを有する堅穴建物で、東西の平面形は不明であるが、南北2.6mの小規模な方形の建物と推測できる。建物外周には径8cm程度の小ピットが約0.5m間隔で並ぶ。建物内部には上部構造を支える柱穴となるようなピットは確認できなかったため、この小ピットにより上部構造を支えていた可能性がある。床面は貼床などの所作はみられなかったが、踏みしめられ硬化していた。カマドは、粘質土でつくられた長さ0.6mの袖部が直線状に残存しており、カマドの中心部には支柱となる自然礫が据え置かれていた。被熱はカマド内部の床面や袖の一部に径0.5m弱の範囲にみられた。カマド掘形は地山と同質土が充填されており不明瞭であるが、径0.8m程度と想定される。遺物は斎宮II-1期の土器が土師器を中心出土した。土師器杯・椀(1～28)は完形、あるいは完形に近いものが20個体以上出土し、中には記号が刻書された土器(25～28)も4点含まれている。A(8・25)、B(11・17・23)、C(12・16・19)、D(22・27)、E(26・28)の5グループは入れ子状に重ねられた状態で出土し、刻書杯はすべてこの一群中に含まれる。土師器皿(29～31)の中にも記号の刻書土器(31)が含まれている。その他、土師器鉢(32)・鍋(34)・壺(33・35～39)・瓶(40)、須恵器壺(41)、砥石(42)がSH10885に伴う資料で、灰釉陶器椀(43)は後世の混入品と考えられる。またSH10885に関連するピットから、土師器杯(48・49)、皿(50)、壺(51)、志摩式製塙土器(60)が出土している。掘立柱建物は、調査区幅が狭く、いずれも部分的な確認である。



第13図 第187-6次調査区位置図(1:2,000)

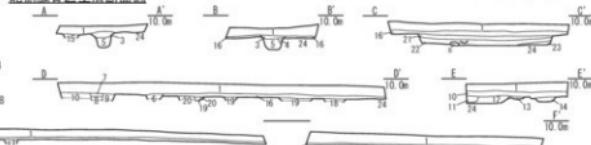
## 北側調査区



## 南側調査区



### 北側調査区 土層断面図



### 北側調査区 土層付記

1 10YR4/3にない黄褐色中粒砂～細粒砂	【表土】	10 10YR2/3黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを5%含む	【SK10889】	18 10YR2/4暗褐色極細粒砂	【ビット】
2 10YR2/3黒褐色極細粒砂～シルト	【溝？】	11 10YR2/8褐褐色シルト	【地山ブロック】	19 10YR2/3暗褐色極細粒砂	【ビット】
3 10YR5/4褐色細粒砂	【SD10886上層】	12 10YR2/2黒褐色極細粒砂～シルト	【SK10888】	20 10YR2/4暗褐色極細粒砂に 地山ブロックを20%含む	【ビット】
4 10YR5/4褐色細粒砂	【地山ブロック】	13 10YR2/2黒褐色極細粒砂	【ビット】	21 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【ビット】
5 10YR2/3黒褐色細粒砂～一種細粒砂	【SD10886下層】	14 10YR2/2黒褐色極細粒砂	【ビット】	22 10YR2/2黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを10%含む	【SH10885上層】
6 10YR2/3暗褐色細粒砂～シルト	【ビット】	15 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【ビット】	23 10YR2/3暗褐色極細粒砂～シルトに 地山ブロックを20%含む	【SH10885下層】
7 10YR2/3黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを5%含む	【ビット】	16 10YR2/4暗褐色細粒砂～細粒砂	【平安時代山原包合層】	24 10YR5/8黄褐色シルト	【地山】
8 10YR2/2黒褐色シルト	【ビット】	17 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【ビット】		
9 10YR2/2黒褐色細粒砂に 地山ブロックを20%含む	【ビット】				

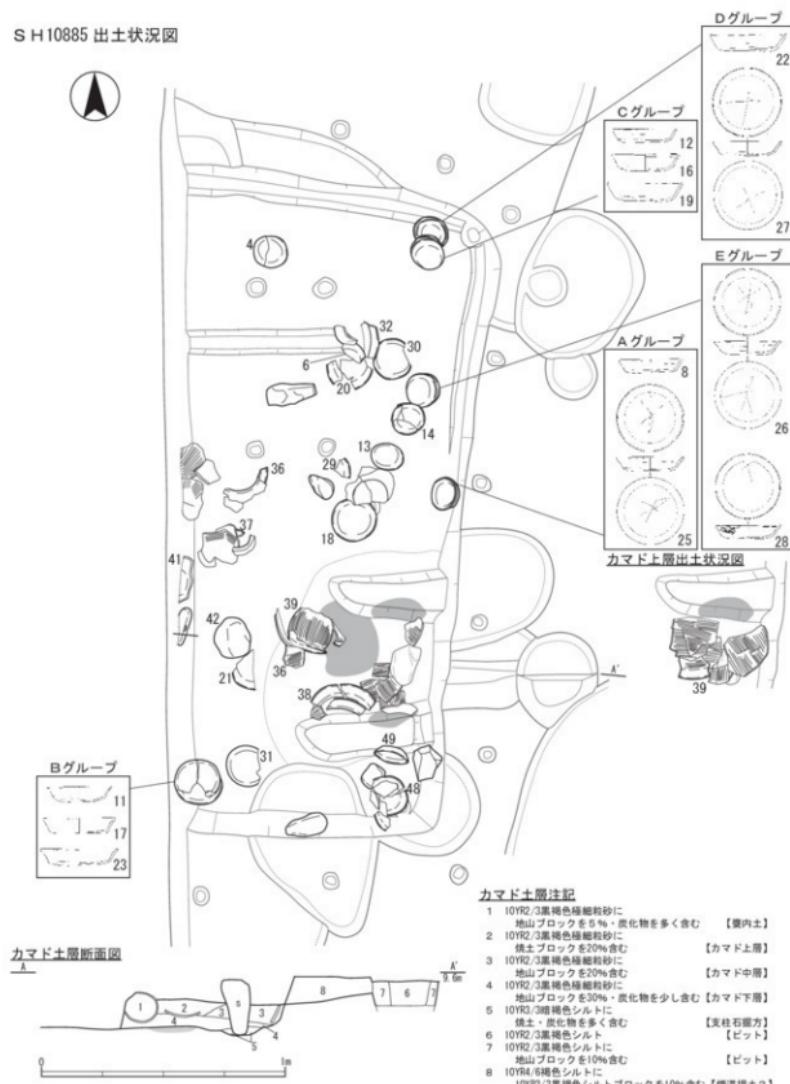
### 南側調査区 土層付記

1 10YR4/2褐色中粒砂～細粒砂	【表土】	15 10YR4/3にない黄褐色極細粒砂～シルト	【SD10900下層】	28 10YR2/4暗褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
2 10YR4/6褐色シルト	【地山ブロック】	16 10YR4/4褐色シルトに 地山ブロックを5%含む	【SD10901】	29 10YR2/2黒褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
3 10YR4/2黒褐色細粒砂～極細粒砂に △ 5cm以下の礫をわずかに含む	【包合層】	17 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【SD10901】	30 10YR2/2黒褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
4 【被カララン】		18 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【柱状記】	31 5YR2/3暗褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
5 7.5YR4/2褐色細粒砂		19 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【柱状記】	32 5YR2/6褐色シルト	【ビット】
6 地山を30%含む	【カララン上層】	20 10YR2/3黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを10%含む	【柱状記】	33 5YR2/3暗褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
6 7.5YR2/3褐色細粒砂	【カララン下層】	21 10YR2/3黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを20%含む	【柱状記】	34 5YR2/3褐色極細粒砂～シルト	【SK10893上層】
7 10YR4/4褐色細粒砂～一種細粒砂に 10cm以上の砾を含む	【SD10900上層】	22 10YR2/3黒褐色極細粒砂	【柱状記】	35 5YR2/3褐色細粒砂	【SK10893中層】
8 10YR2/3暗褐色中粒砂～極細粒砂	【SD10900下層】	23 22層に地山ブロックを20%含む	【ビット】	36 10YR2/4褐色極細粒砂に 地山ブロックを20%含む	【ビット】
9 7層に地山ブロックを10%含む	【SD10901上層】	24 10YR2/4暗褐色極細粒砂に 地山ブロックを10%含む	【柱状記】	37 10YR2/2黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを20%含む	【SD10892】
10 10YR4/2黒褐色極細粒砂	【SD10901下層】	25 10YR2/3黒褐色極細粒砂に 地山ブロックを10%含む	【柱状記】	38 10YR2/3褐色極細粒砂～シルト	【ビット】
11 10YR4/2暗褐色極細粒砂	【SD10900上層】	26 1層に地山ブロックを20%含む	【柱状記】	39 10YR4/2褐色中粒砂～細粒砂	【SD10902上層】
12 7.5YR4/2褐色極細粒砂	【SD10900下層】	27 10YR2/3褐色極細粒砂～シルトに 地山ブロックを30%含む	【柱状記】	40 10YR4/4褐色シルト	【ビット】
13 7.5YR2/3褐色極細粒砂に 地山を20%含む	【SD10900下層】	28 10YR2/4褐色シルト	【柱状記】	41 10YR4/6褐色シルト	【地山】
14 10YR4/4褐色細粒砂に △ 5cm以下の砾をわずかに含む	【SD10900下層】	29 10YR2/4褐色シルト	【柱状記】	42 10YR6/8褐色シルト	

第14図 第187-6次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

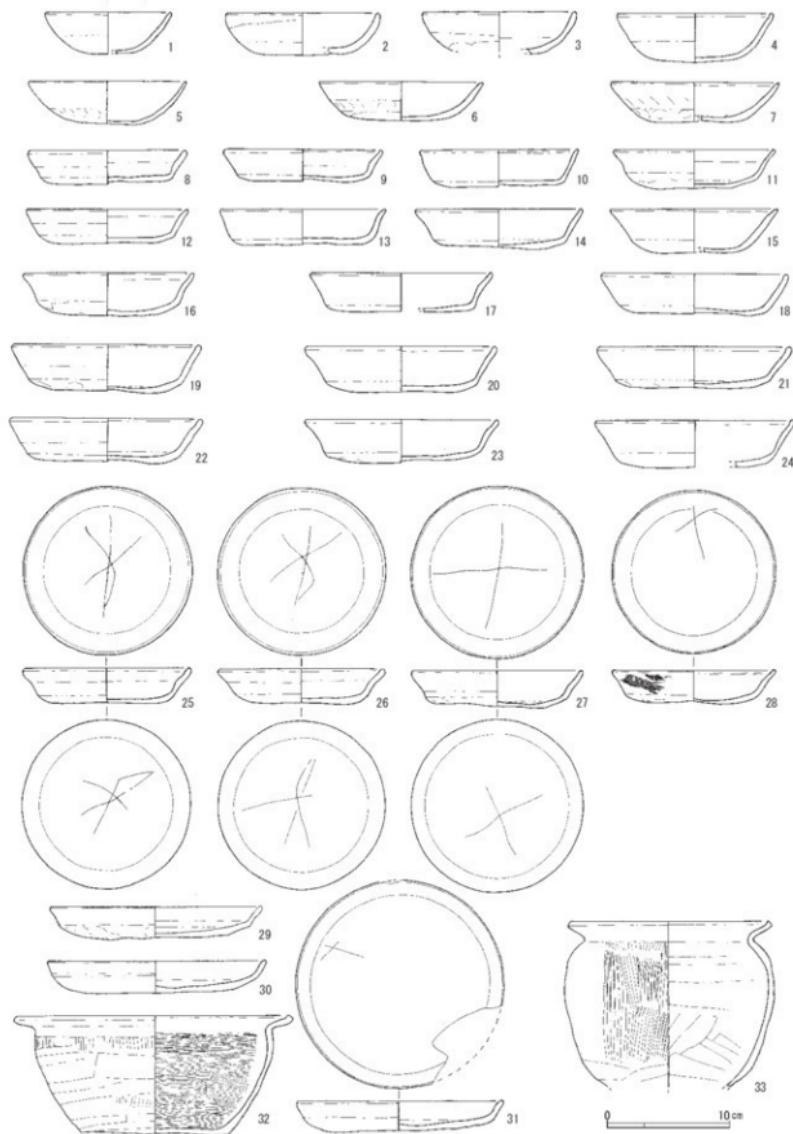
S B 10877やS B 10879などは、梁間2間と仮定すると、建物主軸はいずれも東西方向であろう。遺物はS B 10877の柱穴の掘形埋土から斎宮I期まで遡る須恵器杯B(44)、S B 10879の柱穴からは、被熱した土壁(45)、S A 10883の柱穴からはロクロ土師器皿(46)や綠釉陶器段皿(47)が出土

S H 10885 出土状況図



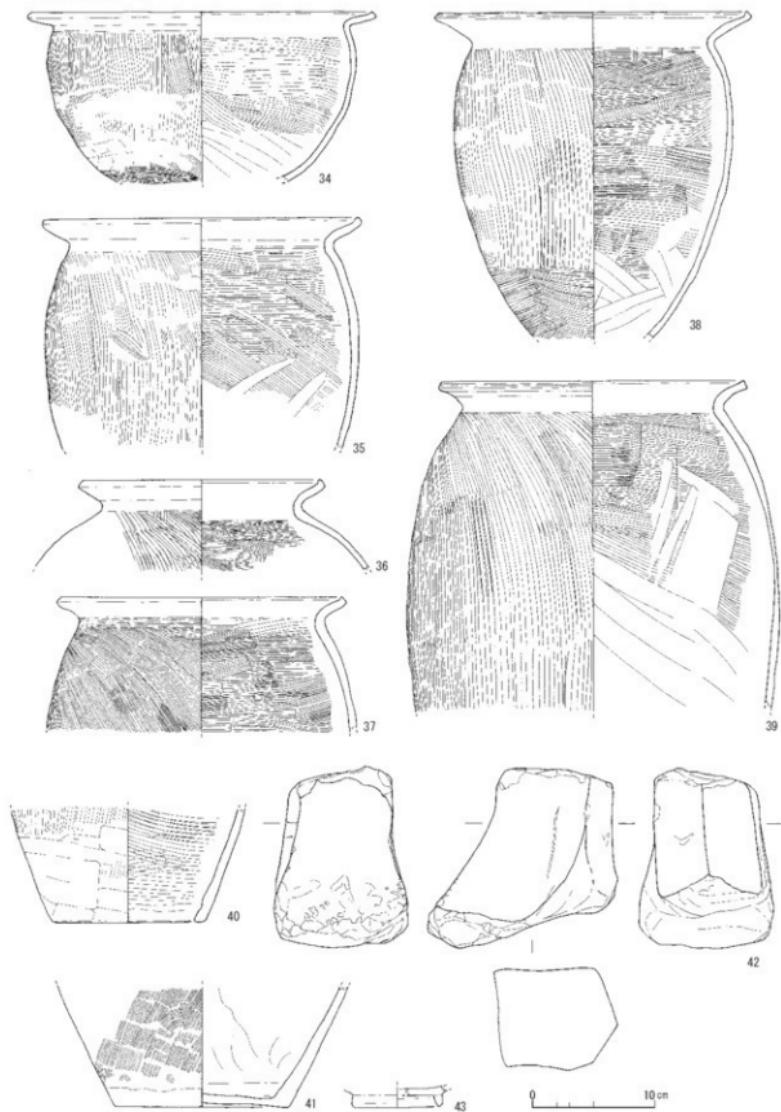
第15図 第187-6次調査 出土状況図・土層図 (1:20)

S H10885(1~33)



第16図 第187-6次調査 出土遺物実測図（1）（1:4）

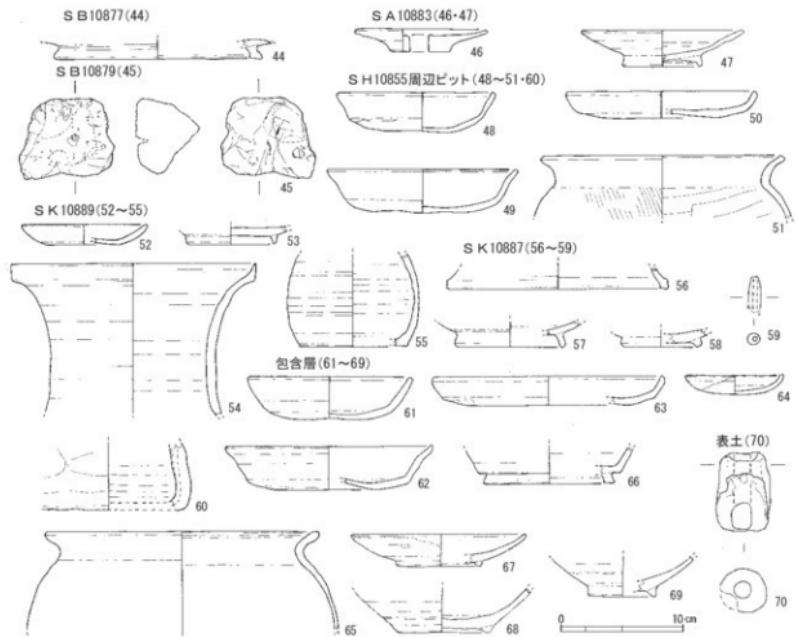
S H10885(34~43)



第17図 第187-6次調査 出土遺物実測図（2）(1:4)

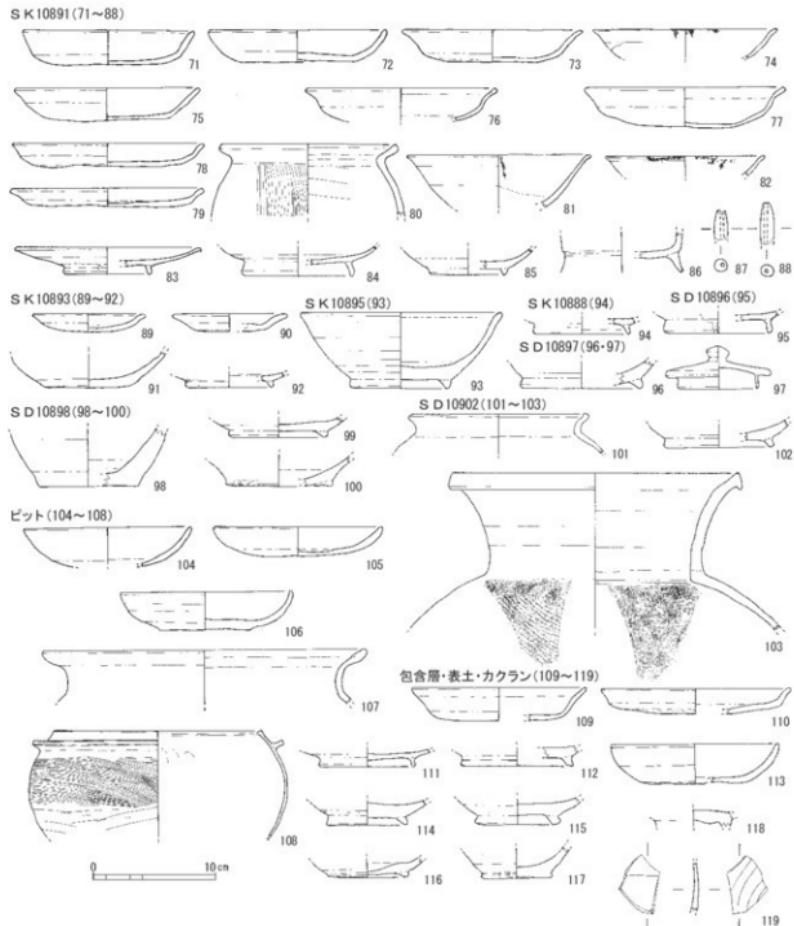
した。土坑は S B10881の柱穴と重複する S K10887のほか、S K10888、S A10883の柱穴と重複する S K10889を確認した。遺物は S K10887から須恵器円面鏡（56）、灰釉陶器椀（57・58）、管状土錘（59）、S K10888から灰釉陶器椀（94）、S K10889から土師器小皿（52）、灰釉陶器椀（53）・広口壺（54）、須恵器瓶類（55）が出土している。その他の遺構として、南北に8m以上の長さとなる S D10886などを確認したが、遺物は出土しなかった。包含層からは、土師器杯（61・62）・皿（63）・小皿（64）・壺（65）、須恵器杯（66）、灰釉陶器皿（67）、陶器山茶椀（68）が、白磁椀（69）が、表土からは管状土錘（70）が出土している。

**南側調査区** 基本層序が上面から表土、灰黄褐色土（包含層）、明褐色シルト（地山）で、遺構は包含層および地山を掘り込んでいる。遺構の検出は、地表面から深さ約0.2~0.4m（標高9.2~9.6m）の地山上面で行い、柵や溝、土坑、ピットを確認した。調査区の北側はピットが集中し、S A10890を確認した。いずれの柱穴からも遺物は出土せず、遺構の時期は不明である。S K10891は一辺4.8mにもなる略方形の大型の土坑で、当初は井戸を想定して掘削を行ったが、深さ0.3mで底面に至ったため、土坑と判断した。遺物は斎宮II~III期の土師器杯（71~77）・皿（78・79）・壺（80）、墨書き灰釉陶器椀（81）、灰釉陶器椀（82・84・85）・皿（83）、緑釉陶器香炉（86）、管状土錘（87・88）がある。S K10892もS K10891と同様に浅く、遺物は小片であったが、同じような性格の遺構



第18図 第187-6次調査 出土遺物実測図（3）(1:4)

と考えられる。SK10893はやや深く、遺物は斎宮III-2期の土師器小皿(89)、ロクロ土師器小皿(90)・杯(91)、灰釉陶器皿(92)がある。SK10894・10895はほぼ同一規模の土坑でどちらも浅く、皿状の断面形を呈す。遺物はSK10895から陶器山茶椀(93)が出土している。溝は、調査区中央では小規模のSD10896と、調査区を東西に横断するSD10903を確認した。遺物はSD10896から灰釉陶器椀(95)が出土した。調査区南側では重複する溝群、SD10897・10898・10899・10900・



第19図 第187-6次調査 出土遺物実測図(4)(1:4)

10901を確認した。溝群は平面や断面観察から列記の順で新しいと考えられる。遺物は、2番目に掘削されたS D10897から、他の溝からの混入と考えられる陶器山茶椀(96)の他、19世紀後半の磁器土瓶蓋(97)が出土、S D10898からは陶器壺(98)・山茶椀(99・100)が出土している。そして、遺物は出土しなかつたが、この溝群の最下層で確認したS D10901は、断面形態や埋土の状況などから、平安時代方格地割の北側道路側溝と推測できる。その後、S D10897には19世紀後半の遺物も含まれておらず、方格地割廃絶後も道路として踏襲され、何度も繰り返し側溝が掘削されたものと考えられ、現在でもその場所は町道として踏襲されている。S D10902は東西溝群から南北に12m以上延びる溝で、北側調査区のS D10886と連なる溝の可能性がある。遺物は土師器甕(101)、須恵器甕(103)、陶器山茶椀(102)が出土した。ピットからは、土師器杯(104・105)・鍋(107・108)、ロクロ土師器杯(106)、包含層・表土・カクランからは、土師器杯(109)・皿(110)、灰釉陶器椀(111)、緑釉陶器(112)、ロクロ土師器杯(113)、陶器山茶椀(114~116)・山皿(117)、青磁椀(118)、白磁椀(119)が出土した。

## 7 第187-7次調査(6AM7,07)

**調査場所** 多気郡明和町大字斎宮字篠林3162-2,  
3149-9

**原 因** 発掘調査

**調査期間** 平成28年8月29日~10月6日

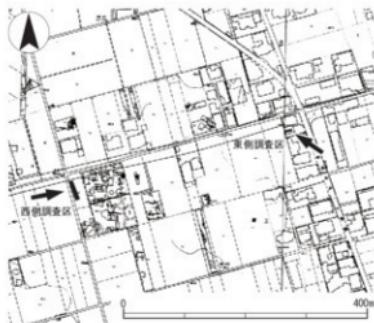
**調査面積** 71.0m<sup>2</sup>

**調査概要** 「明和町歴史的風致維持向上計画」にかかる事業(歴まち整備事業)の一環として、公園整備を行うにあたり、事前に地下遺構の状況を確認するために実施した発掘調査である。調査地は史跡中央北部に位置する。調査区は、西側と東側の計2箇所である。

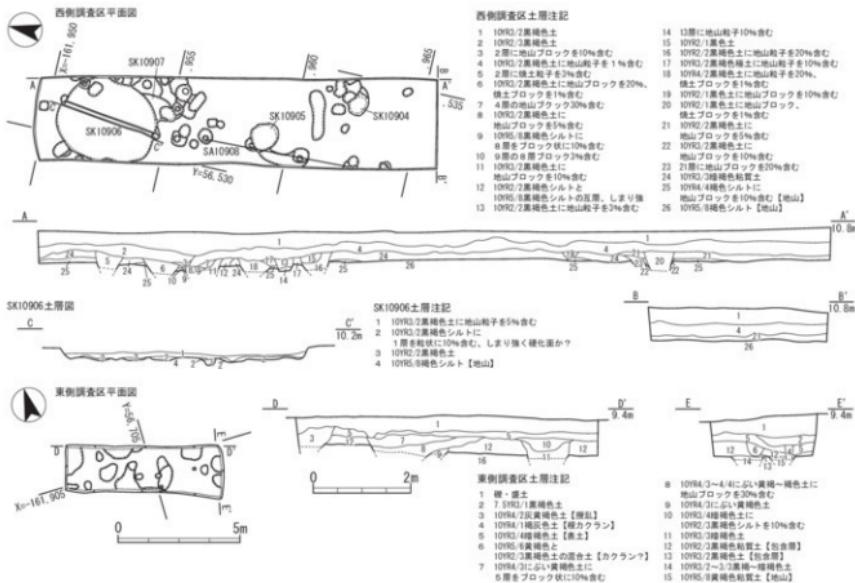
調査区の形状は、西側調査区が幅約3.5m、長さ約16.5m、東側調査区が幅約2.0m、長さ約6.5mで、どちらも長方形である。基本層序は、西側調査区が暗褐色土(表土)、褐色土(包含層)、明黄褐色シルト(地山)、東側調査区が砾・碎石(盛土)、暗褐色土(表土)、黒褐色土(包含層)、黄褐色シルト(地山)となる。遺構の検出は、西側調査区で地表面から深さ約0.6m(標高10.0m)、東側調査区で地表面から約0.8m(標高8.5m)の地山上面で行った。

遺構は、西側調査区で堅穴状のSK10906をはじめとする土坑4基や掘立柱建物と考えられる柱列、東側調査区でピットを確認した。SK10906は、床面が貼床状の硬化面を呈していたが、カマドや主柱穴などは確認できず、堅穴建物である可能性は低い。トレチ幅が狭いため推測の域を出ないが、周辺には柱穴とみられるピットも存在することから、掘立柱建物内に設けられた作業場のような性格になるものかもしれない。

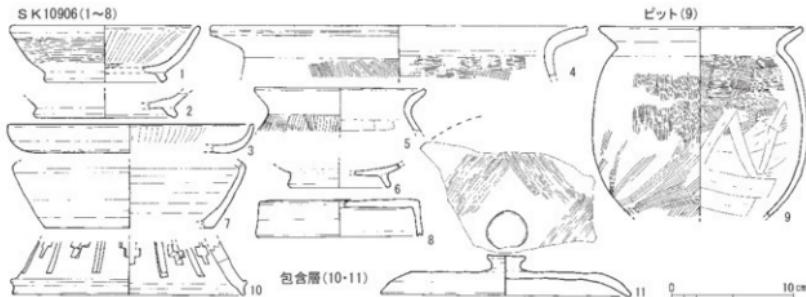
遺物は西側調査区で土師器杯・皿・蓋・甕・瓶、須恵器杯・甕・硯、鉄滓など、東側調査区で土師器甕などが出土した。このうち(1~8)は、SK10906から出土した土師器坏(1~2)・皿(3)・甕(4~5)、灰釉陶器椀(6)、須恵器平瓶(7)・蓋(8)で、上面から出土した灰釉陶器の(6)を除くと斎宮I~2期であろう。このほか、ピットから土師器甕(9)、包含層から土師器杯蓋(11)や十字透孔を施した須恵器円面硯(10)なども出土した。



第20図 第187-7次調査区位置図(1:4,000)



第21図 第187-7次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)



第22図 第187-7次調査 遺物実測図(1:4)

## 8 第187-8次調査(6AH12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏354-6番

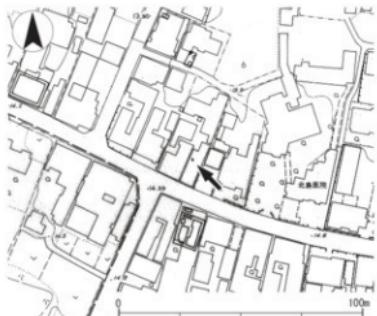
原因 浄化槽埋設

調査期間 平成28年6月29日

調査面積 2.6m<sup>2</sup>

調査概要 浄化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南西部に位置する住宅地で

ある。調査区平面は、幅1.2m、長さ2.2mの長方形である。基本層序は、上面から盛土、攪乱土である。近現代の攪乱が下部まで及んでいたため、包含層や遺構面は残存しておらず、遺構・出土遺物ともに確認できなかった。



第23図 第187-8次調査区位置図（1: 2,000）

## 9 第187-9次調査（6AU13）

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字笛川2396-1

原 因 住宅建築

調査期間 平成28年10月6日～10月13日

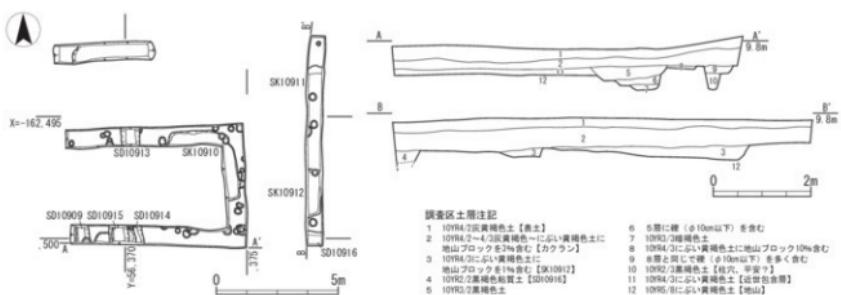
調査面積 19.4m<sup>2</sup>

調査概要 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する宅地である。

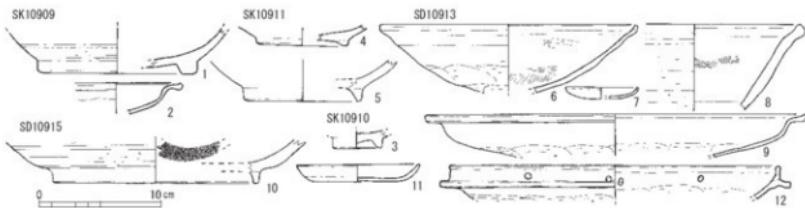
調査区は、溝状のトレンチを3箇所に設けた。基本層序は上面から表土、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土（近世の包含層）、黄褐色シルト（地山）で、遺構は近世の包含層および地山を掘り込んでいる。遺構の検出は、地表面から深さ約0.6m（標高9.2m）の地面上で行い、溝や土坑、ピットを確認した。遺物は、SD10909から17～18世紀の陶器・黄瀬戸の鉢（1）・土師器焰烙（2）、SK10910から陶器・天目茶碗（3）、SK10911から陶器・山茶碗（4～5）、SD10913から土師器焰烙（6・9）・小皿（7）、陶器・黄瀬戸の鉢（8）、SD10915から陶器・瀬戸美濃産大皿（10）、土師器皿（11）・羽釜（12）が出土した<sup>13)</sup>。山茶碗を除き、概ね17～19世紀の江戸期の遺物を中心である。



第24図 第187-9次調査区位置図（1: 2,000）



第25図 第187-9次調査 遺構平面図（1: 200）・土層図（1: 100）



第26図 第187-9次調査 遺物実測図 (1 : 4)

## 10 第187-10次調査 (6AR12)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉地内

原 因 道路案内標識建設

調査期間 平成28年10月11日

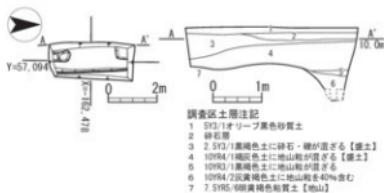
調査面積 3.6m<sup>2</sup>

調査概要 道路案内標識の建て替え工事に伴い立会いを行ったところ、遺構面を確認したため実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部に位置する。

調査区の基本層序は上面から道路整地層、黒褐色土（包含層）、明黄褐色粘質土（地山）で、遺構は地山を掘り込んでいる。遺構の検出は、地表面から深さ約0.8m（標高9.4m）の地山上面で行い、土坑やピットを確認した。遺物は出土しなかった。



第27図 第187-10次調査区位置図 (1 : 2,000)



第28図 第187-10次調査 遺構平面図 (1 : 200)・土層図 (1 : 100)

## 11 第187-11次調査 (6AQ9・R9)

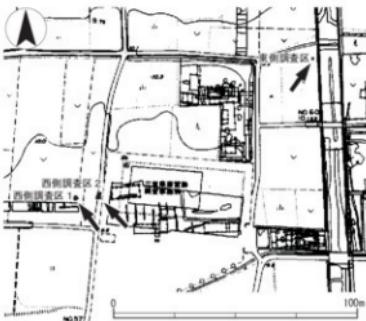
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字下園地内

原 因 史跡整備

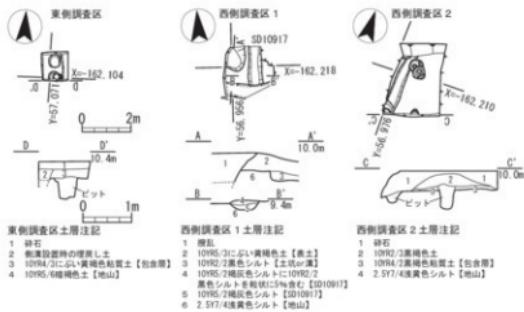
調査期間 平成28年10月21日～11月 7日

調査面積 7.1m<sup>2</sup>

調査概要 「明和町歴史的風致維持向上計画」にかかる事業（歴まち整備事業）の一環として、史跡整備を行うにあたり、事前に地下遺構の状況を確認するために実施した発掘調査である。調査地は史跡中央東部に位置する。



第29図 第187-11次調査区位置図 (1 : 2,000)



第31図 第187-11次調査  
遺物実測図(1:4)

第30図 第187-11次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

調査区は東西3箇所に設けた。東側調査区の基本層序は、上面から碎石層、にぶい黄褐色土（包含層）、黄褐色シルト（地山）で、遺構の検出は地表面から約0.4m（標高9.9m）の地山上面で行った。遺構は土坑や柱穴の可能性のあるピットを確認した。遺物は土師器が出土した。西側調査区1の基本層序は、上面から碎石層、灰黃褐色土（包含層）、浅黄色シルト（地山）で、遺構の検出は地表面から深さ約0.4m（標高9.6m）の地山上面で行った。遺構は溝や柱穴の可能性のあるピットを確認した。遺物は土師器、須恵器が出土した。西側調査区2の基本層序は、攪乱土層、浅黄色シルト（地山）で、遺構の検出は地表面から深さ約0.3m（標高9.4m）の地山上面で行った。遺構は溝やピットを確認した。遺物は、ピットから土師器蓋（1）、包含層から綠釉陶器皿（2）が出土した。

## 12 第187-12次調査 (6AQ13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字鈴池337-1、337-2

原 因 盛土

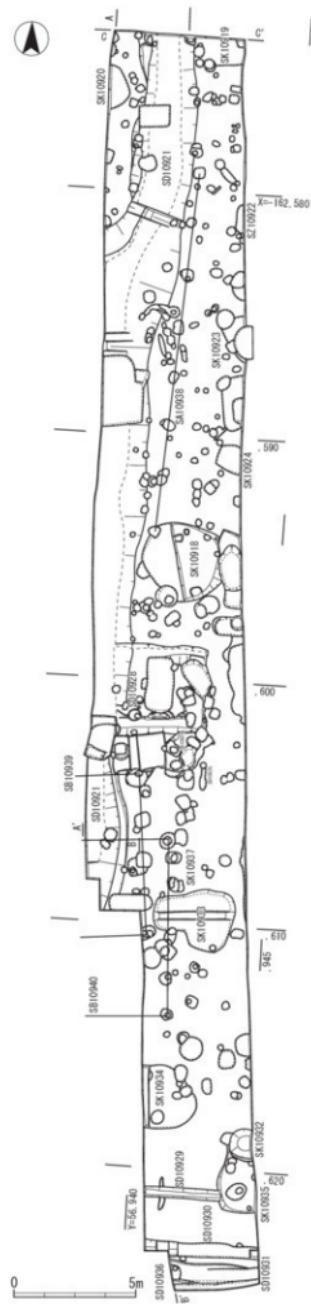
調査期間 平成29年1月11日～3月24日

調査面積 280.0m<sup>2</sup>

調査概要 住宅建築に伴う盛土のため事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する稚種地である。調査区は、長さ51.6m×幅3.6～6.6mのトレンチで、南西側が欠けた略長方形である。基本層序は、上から表土、暗褐色土（包含層）、明黄褐色粘質土（地山）で、地表面から深さ約0.3～0.6m

（標高約10.6～11.2m）の地山面で検出を行い、土坑や溝、掘立柱建物、柱列を確認した。このうち調査区南端で確認した4本の東西溝S D10929～10931・10936は、削平のため底のみの残存であったが、出土遺物から平安時代後期の方格地割の南辺を画していた溝の可能性がある。掘立柱建物などを構成する柱穴とみられるピットは数多いが、調査区の幅が狭いため全体形が判明するものではなく、2.1m等間で7間の柱穴を確認した柱列S A10938と、桁行4間の南北棟掘立柱建物の東側柱列とみられるS B10939・10940を確認したことにとどまる。このうちS A10921は、北端柱穴と南端柱穴のそれぞれ延長3mにも柱筋に乗るピットがあり、合計2間分広がる可能性もあるが、長さに比

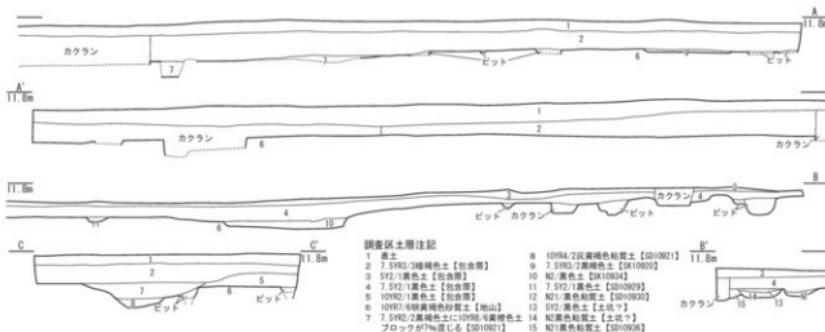




して掘形が小さく、可能性は低い。土坑は、長径約3mの略円形もしくは隅丸方形を呈したものが疎らに分布している。このうちSK10918は、径3.2mの略円形を呈した底面が平坦な土坑で、斎宮編年II-1~2期の遺物が出土した。SK10932は、東側は調査区外に延びるが、検出面からの深さ1.2mを測る土坑で、出土遺物から奈良時代に属するとみられる。検出面から緩やかに深さ30cm前後落ち込む幅約2mの浅い南北溝であるSD10921は、途中西側の調査区外へ分岐する。

(1~11)はSK10918出土の土師器鉢(1)・杯(2~6)・皿(7~8)・甕(9~10)・志摩式製塙器(11)で、(1~3)は内面に暗文をもつ。(12)はSK10919出土の灰釉陶器段皿、(13)はSK10920出土の土師器皿で底部をヘラケズリする。(14~21)はSD10921出土の陶器鉢(14)・山茶椀(15)、土師器鍋(16)・皿・小皿類(17~20)、ロクロ土師器皿(21)で、斎宮III-4~IV-1期に属する。(22)はSK10923出土の近世の焰烙で、同遺構からは土師器や灰釉陶器の細片も出土しており、重複する近世の攪乱からの混入であろう。(23)はSD10925出土の土師器皿で、斎宮III期頃に属しよう。(24~30)はSK10926出土の灰釉陶器皿(24)・椀(25)・土師器甕(28~29)・把手付鍋(30)、陶器山茶椀(26)、綠釉陶器片(27)であるが、斎宮II-4~III-3期の遺物が混在しており、重複遺構からの混入品を含むとみられる。(31~33)はSD10929出土の土師器皿(31)・甕(32)と灰釉陶器甕(33)で、斎宮III期に属しよう。(34)はSD10930出土の土師器甕であるが、同遺構からは図示した甕以外にも灰釉陶器片の出土もあり、平安時代後期の所産であろう。(35~45)はSK10932出土の土師器甕(35)・高杯(36)・皿(37)・杯(38~42・44)・鉢(43)・須恵器杯B(45)で、このうち(35~37)は最下層出土である。斎宮I-4~II-1期の所産とみられ、奈良時代末葉から平安時代初頭に属する。(46~54)はSK10933出土の土師器鉢(46)・甕(47)・杯(48~52)、須恵器杯蓋(53)・壺(54)で、斎宮II期に属する。(55)はSK10934出土の須恵器大甕、(56)はSK10935出土の土師器杯で、斎宮I-2~3期頃の所産とみられ、今回確認した遺物のなかで最も古い。なお、同遺構は、SK10932に重複されている。(57~58)はSD10936出土の土師器皿(57)、ロクロ土師器皿(58)で、斎宮III-3期頃の所産とみられる。なお、同溝はSD10931に重複されている。(59・60)はSA10938を構

第33図 第187-12次調査 遺構平面図(1:200)



第34図 第187-12次調査 土層図 (1:100)

成する柱穴から出土した土師器甕(59)・ロクロ土師器皿(60)で、平安時代後期の所産だろう。(61~66)は単独のピット出土遺物、(67~76)は包含層や攪乱土からの出土遺物で、ロクロ土師器皿(62)、土師器甕(63)・杯(64)・高杯(69)・小皿(74)・焰爐(75)、須恵器短頭壺(61)・壺(65)・杯(67)、陶器甕(66)、灰釉陶器壺(68)、綠釉陶器椀(70~72)、蛇ノ目高台の白磁椀(73)、銅錢(76)を図示した。このうち、(62)と(63)は同じピット出土、(67)は内面にヘラ記号がある。(66)と(74~76)は近世以降に属するとみられ、(76)は不鮮明だが寛永通宝とみられる。

### 13 第187-13次調査 (6A08, P10)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字篠林3207-1,

3134-3、字下園2935、2936-2、

2937-3、字御館2938-1、2939、

2969-4、字内山3046-8

原因 電線埋設

調査期間 平成29年1月25日~1月27日

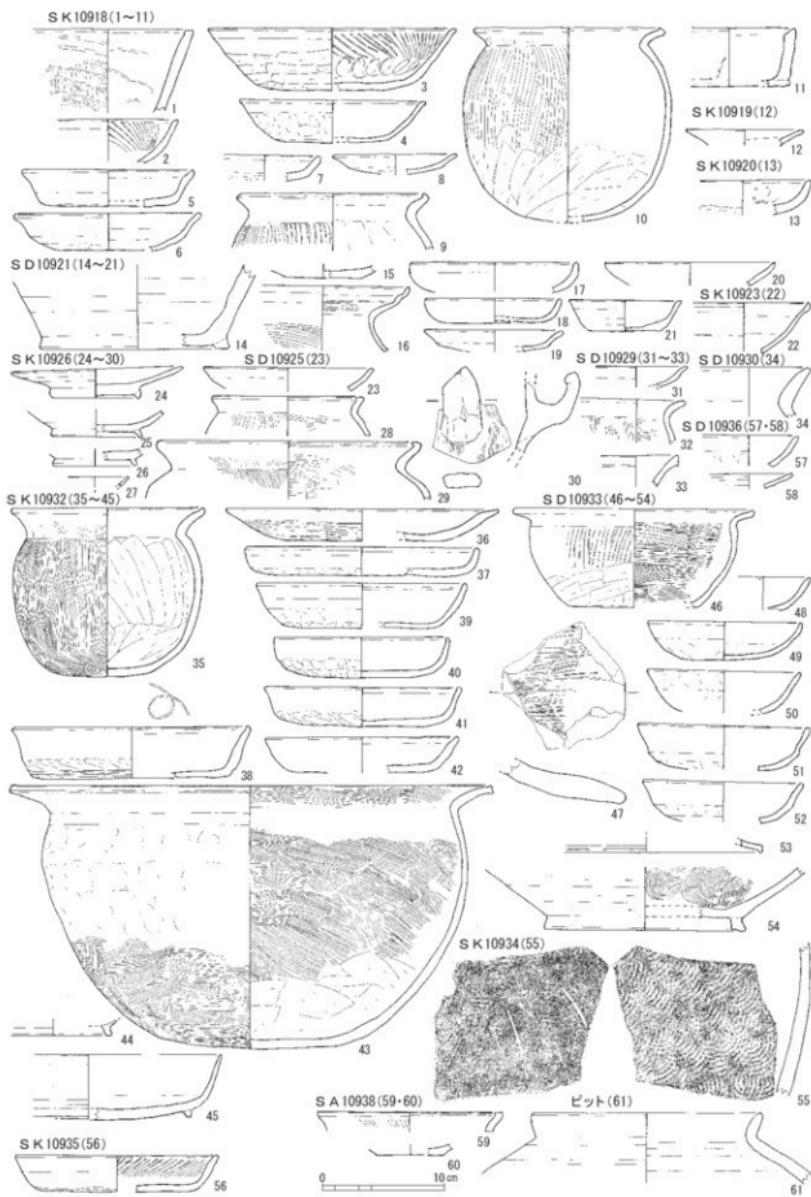
調査面積 13.3m<sup>2</sup>

調査概要 明和町による史跡整備に伴い工事立会を実施したところ、遺構を確認したため発掘調査を実施したものである。調査地は、斎王の森西側の南北道路西側であり、北側と南側の2箇所で調査を実施

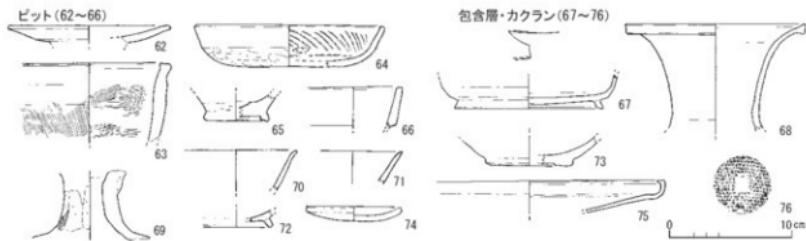
した。北側調査区は東西3m、南北3mの範囲である。基本層序は、上面から表土、盛土、褐色土、黒褐色土(包含層)、黄橙色粘質土(地山)である。地表面から深さ約0.6mの地山直上で検出を行い、ピット、溝を確認した。遺物は、土師器片が少量出土した。南側調査区は東西約1.5m、南北約4.4mの範囲である。基本層序は、上面から盛土、旧耕土、黒灰色シルト、地山である。地表下約1.0mの地山上で遺構検出を行い、溝、ピットを検出した。溝は南北方向に延び、埋土は黒褐色シルトで固く締まる。方格地割南北道路の西側溝にあたる可能性がある。



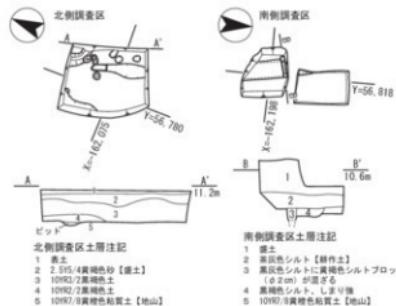
第35図 第187-13次調査区位置図 (1:4,000)



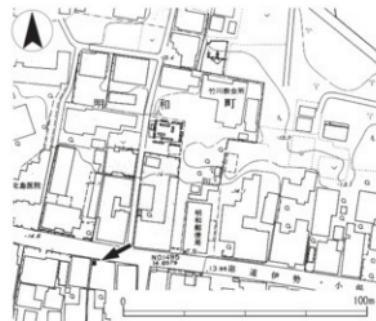
第36図 第187—12次調査 遺物実測図（1）(1:4)



第37図 第187-12次調査 遺物実測図（2）(1:4)



第38図 第187-13次調査 遺構平面図(1:200)・  
土層図(1:100)



第39図 第187-14次調査区位置図(1:2,000)

## 14 第187-14次調査 (6A113)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字南裏241番

原 因 住宅建築

調査期間 平成29年2月7日

調査面積 2.9m<sup>2</sup>

調査概要 調査地は史跡西部の近世伊勢街道南側の住宅地である。個人住宅の建築に伴う浄化槽設置に先立ち発掘調査を実施した。調査区は1.4m×1.9mの大きさである。基本層序は上面から砕石層、砂層、盛土と続き、地表下約0.8mで灰黄色褐色粘質土（地山）に至る。地山上面で遺構検出を行い、ピットを2基検出した。ピット埋土は黒褐色土に灰黃褐色度が若干混じるものである。遺物は土師器の小片が出土した。

## 15 第187-15次調査 (6A111)

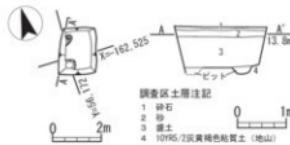
調査場所 多気郡明和町大字竹川字中垣内地内

原 因 側溝付替等

調査期間 平成29年2月27～28日

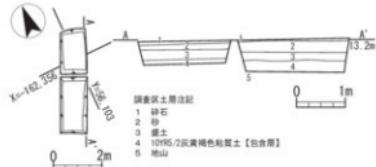
調査面積 4.6m<sup>2</sup>

調査概要 側溝の付替に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡西南部に位置する道路敷地



第40図 第187-14次調査 遺構実測図(1:200)  
・土層図(1:100)

である。調査区は、幅がいずれも約1~1・1m、長さが北側トレンチは約2m、南側トレンチは約2.3mである。基本層序は、上面の道路アスファルトと砕石の下に灰黄褐色粘質土（包含層）があり、その直下が砂礫混じりの黄橙色粘質土（地山）となる。包含層より近世の陶器類が少量出土したが、遺構は確認できなかった。



第42図 第187-15次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

## 16 第187-16次調査 (6AP13)

**調査場所** 多気郡明和町大字斎宮字牛葉324

**原 因** 住宅建築

**調査期間** 平成29年3月22日～3月24日

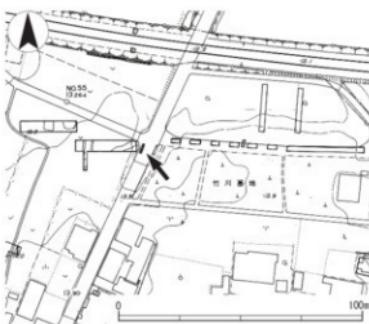
**調査面積** 30.4m<sup>2</sup>

**調査概要** 住宅新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する宅地である。

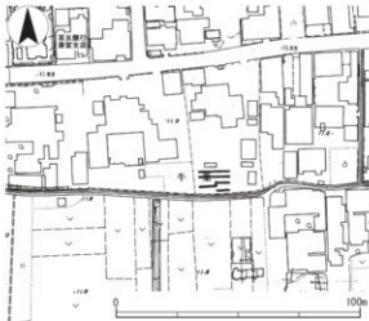
調査区は、幅約0.8mの溝状のトレンチを4箇所に設けた。基本層序は、上面から表土、灰黄褐色土（近現代の造成土）、黒褐色土（近現代の擾乱土）、黄褐色シルト（地山）である。遺構の検出は、地表面から約0.7m（標高約9.0m）の地山上面で試み、地山を切り込んだ掘り込みは確認したが、いずれも擾乱と判断した。

遺物は、造成土や擾乱土中から出土した近世以降の陶磁器（1～3）と土師器小皿（4）を図示した。

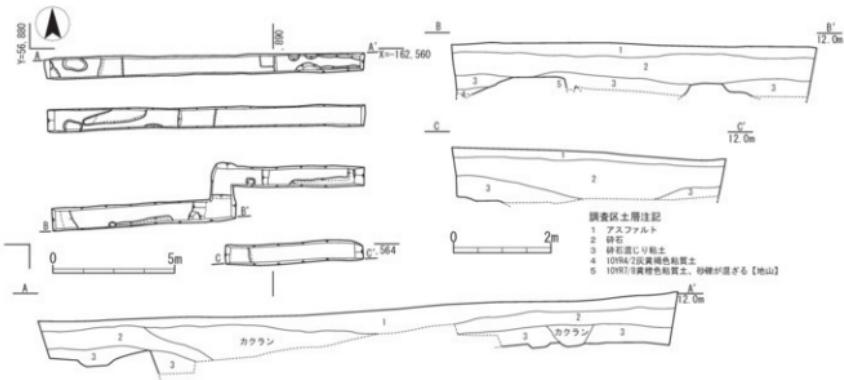
(1)は肥前産磁器の筒形碗で、人工コバルト使用以前の18世紀後半から19世紀前半の所産、(2)は瀬戸美濃産陶器の腰錆碗で、背が低く19世紀前半頃の所産とみられる。(3)は瀬戸美濃産の磁器碗で、5弁花文をもつ。(4)は土師器小皿で、口縁端部に油煙が付着する。



第43図 第187-16次調査区位置図 (1:2,000)



第44図 第187-16次調査 遺物実測図 (1:4)



第45図 第187-16次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

## 17 第187-17次調査 (6AS7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字西前沖

原因 下水道管布設等

調査期間 平成29年3月28日～3月31日

調査面積 6.4m<sup>2</sup>

調査概要 下水道設備の室内配管工事に伴い実施した。調査地は、広域圏道路東側の史跡東部北寄りに位置し、道路側溝を挟んだ北側と南側の2箇所で調査を実施した。基本層序は、上面から宅地コンクリート基礎もしくは道路のアスファルト層および路床、暗褐色砂質土、褐灰色粘質土、明黄褐色砂質土（地山）である。

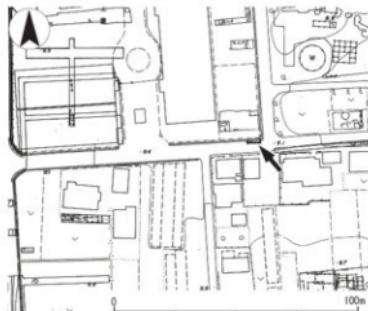
遺構は地表面から深さ約60cmの褐灰色粘質土層直上で検出を行い、ピットを1基確認したが、その他は擾乱が多く、遺構は認められなかった。土師器片が少量出土した。



第47図 第187-17次調査遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)

### 【註】

- 1 本書掲載の近世陶磁器類に関し、三重県埋蔵文化財センターの石井智大氏にご教示を得た。



第46図 第187-17次調査区位置図(1:2,000)

次数	遺構名	調査時 遺構名	時期	出土遺物	備考
187-1	SK 10875	ビット	古代	土師器	
187-3	SK 10876	土坑1	縄文時代	土師器・山茶梅	
	SK 10877	建物1	飛鳥～奈良時代	須恵器	
	SK 10878	建物2	古代	土師器	
	SK 10879	建物3	古代	土師器・土壁	
	SK 10880	建物4	古代	土師器	
	SK 10881	建物5	古代	土師器	
	SA 10882	柱列1	古代	土師器	
	SA 10883	柱列2	縄文時代	ロクロ土師器・縄輪陶器	
	SA 10884	柱列3	古代	土師器	
	SK 10885	土坑7(壁穴)	奈良時代後葉	土師器・財蓄土師器・須恵器・灰輪陶器・磨石	カマド村
	SK 10886	溝1	縄文時代以降	土師器	
	SK 10887	土坑8	古代	土師器	
	SK 10888	土坑5	平安時代中期	土師器・灰輪陶器	
	SK 10889	土坑6	古代	土師器・須恵器・灰輪陶器	
187-6	SA 10890	柱列4	縄文時代以降	土師器	
	SK 10891	非戸1	平安時代中期	土師器・須恵器・灰輪陶器・墨書き灰輪陶器・縄輪陶器・土鍋	
	SK 10892	土坑1	古代	土師器	
	SK 10893	土坑2	縄文時代	土師器・ロクロ土師器・灰輪陶器	
	SK 10894	土坑3	縄文時代	土師器	
	SK 10895	土坑4	縄文時代	山茶梅・瓦製品	
	SD 10896	溝2	平安時代中期	灰輪陶器	
	SD 10897	溝3	19世紀後半	山茶梅・磁器	
	SD 10898	溝4	縄文時代以降	山茶梅	
	SD 10899	溝5	縄文時代以降	土師器	
	SD 10900	溝6	縄文時代以降	土師器	
	SD 10901	溝7	平安時代	土師器	方格地削造成当時の道路側溝
	SD 10902	溝8	縄文時代以降	土師器・須恵器・山茶梅	
	SD 10903	溝9	縄文時代以降	土師器	
	SK 10904	土坑1	古代	土師器	
187-7	SK 10905	土坑2	古代	土師器・須恵器	
	SK 10906	土坑3	奈良時代末～平安時代初期	土師器・灰輪陶器・須恵器	
	SK 10907	土坑4	古代	土師器・須恵器	
	SK 10908	なし			
	SK 10909	土坑1	近世後期	土師器・陶器・磁器	
	SK 10910	土坑2	近世末	土師器・天日茶梅	
	SK 10911	土坑3	近世末	土師器・山茶梅	
187-8	SK 10912	土坑4	近世末	陶器	
	SD 10913	溝1	近世末	土師器・磁器	
	SD 10914	溝2	近世後期	土師器・陶器	
	SD 10915	溝3	近世後期	土師器・陶器	
	SD 10916	溝4	近世末	土師器・灰輪陶器・陶器	
187-11	SD 10917	溝1	奈良時代後期	土師器	
	SK 10918	土坑1	平安時代前期	土師器・志摩式灰陶土器	
	SK 10919	土坑2	平安時代	土師器・灰輪陶器	
	SK 10920	土坑3	平安時代	土師器	
	SD 10921	ミゾ3	平安時代末～縄文時代	土師器・ロクロ土師器・縄輪陶器・灰輪陶器・山茶梅	
	SD 10922	S25	平安時代	土師器・灰輪陶器	
	SK 10923	土坑6		土師器・灰輪陶器	近世も混じる
	SK 10924	土坑7	平安時代	土師器・須恵器	
	SK 10925	土坑8	平安時代	土師器	
	SK 10926	土坑9	縄文時代	土師器・縄輪陶器・灰輪陶器・山茶梅	
	SK 10927	土坑10	近世か	土師器・灰輪陶器・陶器	
	SD 10928	溝11		土師器	
	SD 10929	溝12	平安時代	土師器・須恵器・灰輪陶器	
	SD 10930	溝13	平安時代後期	土師器・灰輪陶器	
	SD 10931	溝14	古代	土師器・須恵器・陶器	
	SK 10932	土坑15	奈良時代	土師器・須恵器	
	SK 10933	土坑16	平安時代	土師器・須恵器・灰輪陶器	
	SK 10934	土坑17	古代	土師器・須恵器	
	SK 10935	土坑18	奈良時代	土師器・須恵器	
	SD 10936	ミゾ19	平安時代後期	土師器・ロクロ土師器	
	SK 10937	土坑20		土師器	
	SA 10938	柱列	平安時代後期	土師器・ロクロ土師器	
	SK 10939	脚立1	古代	土師器	
	SK 10940	脚立2			
187-13	SD 10941	溝1	古代	土師器・須恵器	方格地削造南北路の内側側溝の可能性

第2表 第187次調査 遺構一覧表

## 第187-4次調査

番号	器種	图形	四一 盤68	測定 造形名	残存度	094 番号
1	須志器	杯	カクラン	カクラン	底部1/12周溝	001-01

## 第187-6次調査

1	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内 北丁 上丸7 東西内レ内	口縁部9/12	006-03
2	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内	口縁部6/12	006-05
3	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内	口縁部6/12	002-08
4	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内 北丁 上丸7 東西内	完形	001-05
5	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内 北丁 上丸7 東西内	口縁部4/12	004-04
6	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 東西内 北丁 上丸7 東西内	口縁部4/12	003-04
7	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部3/12	004-05
8	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内	完形	001-07
9	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部12/12 (外縁+内縁)	002-03
10	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	完形	001-08
11	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部11/12	002-06
12	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	001-02
13	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部9/12	001-03
14	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	001-01
15	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部3/12	006-02
16	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	002-03
17	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部10/12	003-03
18	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	002-04
19	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	002-02
20	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部6/12	001-01
21	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部9/12	002-07
22	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	001-04
23	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部12/12	003-02
24	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部3/12	004-03
25	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	完形	018-01
26	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	完形	018-02
27	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	019-02
28	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	ほぼ完形	020-01
29	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部10/12	002-05
30	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部10/12	001-06
31	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部9/12	019-01
32	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部5/12	003-05
33	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部6/12	004-01
34	土師器	杯	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	003-06
35	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	009-01
36	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部5/12	004-02
37	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部6/12	008-02
38	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部4/12	007-01
39	土師器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	005-01
40	土師器	瓶	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部1/12	008-01
41	須志器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部9/12	009-01
42	石製品	砾石	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	—	023-01
43	灰陶器	甕	SE0885	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部3/12	006-04
44	須志器	杯	SE0877	北丁 上丸7 南北内 堆土穴 柱穴	底部1/12	014-05
45	土製品	上塗	SE0879	北丁 上丸7 南北内	—	022-01
46	土師器	甕	SA0883	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部11/12	024-01
47	灰陶器	段皿	SE0883	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12 底部4/12	022-02
48	土師器	杯	SE0883	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部9/12	014-02
49	土師器	杯	SE0883	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	完形	014-01

50	土師器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12	014-04
51	土師器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12	014-03
52	土師器	小甕	SK10889	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	012-06	
53	灰陶器	甕	SK10889	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部1/12	012-04	
54	灰陶器	法11山	SK10889	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12周溝	012-01	
55	須志器	甕	SK10889	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部2/12	012-05	
56	須志器	円壺面	SK10887	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部1/12周溝	012-01	
57	灰陶器	甕	SK10887	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部1/12	013-01	
58	灰陶器	甕	SK10887	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部2/12	013-02	
59	土製品	環狀土鍋	SK10887	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	欠損あり	020-04	
60	須志器	（志水式）	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部1/12	012-04
61	土師器	杯	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	016-05
62	土師器	杯	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部2/12	016-06
63	土師器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12	016-03
64	土師器	小甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部10/12	015-04
65	土師器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12	015-03
66	須志器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部2/12	017-03
67	灰陶器	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	口縁部1/12	017-04
68	陶器(山茶碗)	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部6/12	017-02
69	白磁	甕	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	底部3/12	022-03
70	土製品	環狀土鍋	—	ビット	北丁 上丸7 南北内 北丁 上丸7 南北内	欠損あり	020-05
71	土師器	杯	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	ほぼ完形	019-01
72	土師器	杯	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	ほぼ完形	019-05
73	土師器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部4/12	019-08
74	土師器	杯	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部1/12	019-05
75	土師器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部12/12	019-03
76	土師器	杯	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部5/12	019-04
77	土師器	杯	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部8/12	019-02
78	土師器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部2/12	019-06
79	土師器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部7/12	019-07
80	土師器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部1/12	019-04
81	灰陶器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部1/12	023-05
82	灰陶器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	底部1/12	011-06
83	灰陶器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	口縁部2/12	011-03
84	灰陶器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	底部4/12	011-01
85	灰陶器	甕	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	底部2/12	011-02
86	縁切器	香炉	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	底部2/12	021-02
87	土製品	環狀土鍋	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	欠損あり	020-03
88	土製品	環狀土鍋	SK10891	南丁 南丸7 内縁 頂部2	—	欠損あり	020-02
89	土師器	小甕	SK10893	南丁 上丸2 内縁 頂部2	—	口縁部4/12	011-08
90	土師器	小甕	SK10893	南丁 上丸2 内縁 頂部2	—	口縁部2/12	011-10
91	土師器	杯	SK10893	南丁 上丸2 内縁 頂部2	—	底部8/12	011-07
92	灰陶器	甕	SK10893	南丁 上丸2 内縁 頂部2	—	底部2/12	011-09
93	陶器	甕	SK10896	南丁 满8 内縁 頂部2	—	口縁部1/12	013-02
94	陶器	甕	SK10898	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部2/12	012-02
95	灰陶器	甕	SK10896	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部1/12	013-01
96	陶器	甕	SK10897	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部1/12	013-04
97	土陶器	土陶器	SK10897	南丁 满8 内縁 頂部2	—	定形	023-05
98	陶器	甕	SK10898	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部2/12	013-06
99	陶器	甕	SK10898	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部定形	013-07
100	陶器(山茶碗)	甕	SK10898	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部3/12	013-08
101	土師器	甕	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部12/12	011-03
102	陶器(山茶碗)	甕	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部12/12	009-04
103	須志器	甕	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部12/12	009-02
104	土師器	杯	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	口縁部4/12	014-06
105	土師器	甕	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	口縁部3/12	014-07
106	土師器	甕	SK10902	南丁 满8 内縁 頂部2	—	底部定形	014-08

第3表 第187次調査 出土遺物一覧表(1)

107	土師器	鍋	ビット p15 N <sub>2</sub>	南T a3 口縁部4/12	015-02	20	土師器	皿	SD10621	満 4	口縁部1/12	003-02		
108	土師器	羽釜	ビット p15 N <sub>2</sub>	南T b18	口縁部4/12	015-01	21	ロクロ土師器	皿	SD10621	満 4	口縁部7/12	003-03	
109	土師器	杯	包合型	南T 包合型	口縁部3/12	016-01	22	土師器	焰燒	SK10623	土坑 6	口縁部1/12以下	004-01	
110	土師器	皿	包合型	南T 包合型	口縁部2/12	016-02	23	土師器	皿	SD10625	満 8	口縁部1/12	004-02	
111	灰陶壺	瓶	包合型	南T 包合型	底部3/12	016-07	24	灰陶壺	皿	SK10626	土坑 9	口縁部8/12	005-01	
112	灰陶壺	瓶	表土	南T 表土	底部3/12	022-05	25	灰陶壺	所	SK10626	土坑 9	底部3/12	004-03	
113	土師器	杯	包合型	南T 包合型	口縁部2/12	016-04	26	陶器(山形窓)	碗	SK10626	土坑 9	底部3/12	004-04	
114	陶器(山形窓)	碗	包合型	南T カクラン	底部3/12	017-07	27	灰陶壺	不明	SK10626	土坑 9	口縁部1/12未満	012-06	
115	陶器(山形窓)	碗	包合型	南T 包合型	底部3/12(2次形)	017-01	28	土師器	甕	SK10626	土坑 9	口縁部2/12	004-06	
116	陶器(山形窓)	碗	カクラン	南T カクラン	底部3/12	017-06	29	土師器	甕	SK10626	土坑 9	口縁部2/12	004-05	
117	陶器(山形窓)	碗	包合型	南T 包合型	底部3/12	016-08	30	土師器	把手付鉢	SK10626	土坑 9	把手片	004-07	
118	青磁	碗	カクラン	南T カクラン	底部3/12	021-01	31	土師器	皿	SD10629	満12	口縁部1/12	005-02	
119	白磁	碗	包合型	南T 包合型	一升	022-09	32	土師器	甕	SD10629	満12	口縁部1/12以下	005-03	
第187-7次調査														
1	土師器	杯	SK10906	土坑 3	口縁部1/12未満	底部1/12未満	001-03	33	灰陶壺	甕	SD10629	満12	口縁部1/12以下	005-04
2	土師器	杯	SK10906	土坑 3	口縁部3/12	001-02	34	土師器	甕	SD10630	満13	口縁部1/12以下	005-05	
3	土師器	皿	SK10906	土坑 3	口縁部2/12	001-01	35	土師器	甕	SK10632	土坑15	13辺定形	007-06	
4	土師器	甕	SK10906	土坑 3	口縁部1/12	002-01	36	土師器	高杯	SK10632	土坑15	13辺定形	008-02	
5	土師器	甕	SK10906	土坑 3	口縁部1/12	001-04	37	土師器	皿	SK10632	土坑15	口縁部5/12	008-04	
6	灰陶壺	瓶	SK10906	土坑 3 (1.5kg)	底部3/12	001-07	38	土師器	杯	SK10632	土坑15	口縁部5/12	007-02	
7	須直器	平瓶	SK10906	土坑 3 (1.5kg)-1	底部3/12	001-06	39	土師器	杯	SK10632	土坑15	口縁部5/12	008-03	
8	須直器	蓋	SK10906	土坑 3	口縁部1/12	001-05	40	土師器	杯	SK10632	土坑15	13辺定形	007-03	
9	土師器	甕	ビット p16 <sup>a</sup> a2	27 p16 <sup>a</sup>	口縁部4/12	002-03	41	土師器	杯	SK10632	土坑15	口縁部9/12	007-01	
10	須直器	内面糊	包合型	a2 粘着-様	底部3/12	002-05	42	土師器	杯	SK10632	土坑15	8/12	007-04	
11	土師器	甕	包合型	包合型	口縁部1/12未満	002-04	43	土師器	鉢	SK10632	土坑15	30/32	006-01	
第187-9次調査														
1	陶器(黄糞) <sup>b</sup>	鉢	SK10909	27 上坑 1	底部2/12	001-05	44	土師器	杯	SD10632	土坑15	底部1/12(下)	007-05	
2	土師器	焰燒	SK10909	27 上坑 1	口縁部1/12(2下)	001-08	45	須直器	鉢	SK10632	土坑15	口縁部1/12	008-01	
3	(火口直筒)	瓶	SK10910	27 上坑 2	底部3/12	001-07	46	土師器	鉢	SK10633	土坑16	13辺定形	008-07	
4	陶器(山形窓)	碗	SK10911	37 上坑 3	底部3/12	001-10	47	土師器	物入式壺	SK10633	土坑16	-	009-01	
5	陶器(山形窓)	碗	SK10911	37 上坑 3	底部3/12	001-09	48	土師器	鉢	SK10633	土坑16	口縁部1/12以下	010-04	
6	土師器	焰燒	SK10913	2 T 溝 1	口縁部2/12	001-01	49	土師器	杯	SK10633	土坑16	13辺定形	008-05	
7	土師器	小瓶	SK10913	2 T 溝 1	口縁部2/12	001-11	50	土師器	杯	SK10633	土坑16	口縁部2/12	010-01	
8	陶器(黄糞) <sup>b</sup>	鉢	SK10913	2 T 溝 1	口縁部1/12未満	001-06	51	土師器	杯	SK10633	土坑16	口縁部2/12	010-02	
9	1時器	焰燒	SK10913	2 T 溝 1	口縁部4/12	001-02	52	土師器	杯	SK10633	土坑16	口縁部2/12	010-03	
10	陶器(黄糞)	大瓶	SK10913	2 T 溝 3	底部3/12	002-01	53	須直器	蓋	SK10633	土坑16	口縁部1/12	008-06	
11	1時器	瓶	SK10913	2 T 溝 3	口縁部4/12	001-04	54	須直器	蓋	SK10633	土坑16	底部3/12	010-06	
12	土師器	羽釜	SK10913	2 T 溝 3	口縁部2/12	001-03	55	須直器	火鑊	SK10634	土坑17	16 銛片	010-07	
第187-11次調査														
1	土師器	皿	ビット	27 p2	ツマリ9/12	001-01	56	土師器	杯	SK10635	土坑18	口縁部3/12	010-05	
2	灰陶壺	瓶	包合型	1T 包合型	口縁部1/12未満	001-02	57	土師器	皿	SD10636	満19	口縁部1/12以下	005-06	
第187-12次調査														
1	土師器	杯	SK10918	土坑 1	1/12(2下)	002-04	58	ロクロ土師器	皿	SD10636	満19	口縁部1/12以下	005-07	
2	土師器	杯	SK10918	土坑 1	1/12	002-06	59	土師器	甕	SA10638	53 p6	13辺定形	011-02	
3	土師器	杯	SK10918	土坑 1	11/12	001-01	60	ロクロ土師器	皿	SA10638	a1 p6	底部3/12	011-01	
4	土師器	杯	SK10918	土坑 1	11/12	002-07	61	須直器	焰燒	SD10638	b1 p6	御原1/12	011-04	
5	1時器	杯	SK10918	土坑 1	口縁部1/12(2下)	002-02	62	ロクロ土師器	皿	SD10638	b1 p6	13辺定形	011-07	
6	土師器	杯	SK10918	土坑 1	2/12	002-01	63	土師器	甕	SD10638	b1 p6	口縁部1/12以下	011-06	
7	土師器	皿	SK10918	土坑 1	1/12	002-08	64	土師器	杯	SD10638	b10 p6	13辺定形	011-03	
8	土師器	甕	SK10918	土坑 1	4/12	002-05	65	須直器	甕	SD10638	b9 p6	底部5/12	011-08	
9	土師器	甕	SK10918	土坑 1	口縁部4/12	002-08	66	陶器	甕	SD10638	b12 p6	口縁部1/12以下	011-05	
10	土師器	甕	SK10918	土坑 1	6/12	001-02	67	灰陶壺	甕	CA10639	カクラン1	カクラン1	底部1/12	009-04
11	製作土器	(志摩型)	SK10918	土坑 1	底部3/12	012-02	68	灰陶壺	甕	SD10639	カクラン1	カクラン1	底部1/12未満	009-02
12	灰陶壺	段瓶	SK10919	土坑 2	口縁部2/12	002-09	69	土師器	高杯	SD10639	カクラン1	カクラン1	-	012-01
13	土師器	皿	SK10920	土坑 3	1/12(2下)	002-10	70	灰陶壺	甕	SD10639	カクラン1	カクラン1	底部1/12未満	012-07
14	陶器	瓶	SK10921	溝 4	底部3/12	003-07	71	須直器	甕	SD10639	カクラン1	カクラン1	口縁部1/12以下	012-08
15	陶器(山形窓)	瓶	SK10921	溝 4	底部3/12	003-08	72	灰陶壺	甕	CA10639	カクラン1	カクラン1	底部1/12	012-05
16	土師器	瓶	SK10921	溝 4	1/12(2下)	003-04	73	白磁	甕	SD10639	カクラン1	カクラン1	底部3/12	012-03
17	土師器	皿	SK10921	溝 4	口縁部2/12	003-06	74	土師器	小瓶	SD10639	カクラン1	カクラン1	底部1/12未満	009-03
18	土師器	小瓶	SK10921	溝 4	1/12(2下)	003-05	75	土師器	焰燒	SD10639	カクラン1	カクラン1	口縁部1/12	009-05
19	土師器	小瓶	SK10921	溝 4	口縁部1/12	003-03	76	洞瓶	寛永通宝	SD10639	カクラン1	カクラン1	-	012-04

第4表 第187次調査 出土遺物一覧表（2）

## 付編 史跡現状変更等許可申請

平成28年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、53件である。発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め17件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが15件（うち前年以前の申請分5件）である。

53件の申請の内、発掘調査を行わなかった41件は、小規模または工事が簡易で地下造構に影響を及ぼさないものや、すでに発掘調査が行われている箇所での申請であった。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

28年度の申請の内容は、一覧表（第5表）のとおりである。これらの申請は、（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

### （A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建築、解体に伴うもので20件あった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた7件（第187-5、6、8、9、12、14、16次調査）について調査を行った。

他の13件については、住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

### （B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は15件の提出があった。うち発掘調査が必要な申請は1件あり、側溝代替等（第187-15次調査）を実施した。他の件については、電気・電話関係や、簡易な踏切改修、道路改修であり工事立会いで着工している。

### （C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は15件あり、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものが14件、明和町日本遺産活用推進協議会のものが1件であった。その中で、発掘調査が必要な申請は3件あり、Wi-Fi整備（第187-3次調査）、道路案内標識建替（第187-10次調査）、電線埋設（第187-13次調査）について実施した。

### （D）発掘調査のための申請

この申請は3件の提出があった。うち2件は三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第188次調査、第189次調査）で、計827m<sup>2</sup>が調査された。この内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。他の1件は、公園整備に伴う遺構確認のための事前調査（第187-7次調査）で、59.6m<sup>2</sup>が調査された。

申 請 地	種別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 日	許 可 日	変 更 面 積	区分	備 考
1 奈宮字箇田内地(町道中町2号線)	B	西日本電信電話㈱三重支店	電柱柱建設	H28.4.5	H28.4.13	1本	3	
2 竹川字吉見559-33洋か5筆	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	Wi-Fi整備	H28.4.7	H28.5.20	6基	1・2・3	第187~3次調査
3 奈宮字広瀬3366ほか8筆	D	三重県(奈宮歴史博物館)	免振調査	H28.4.8	H28.5.20	700m <sup>2</sup>	1	第188次調査
4 奈宮字篠林3162-2、奈宮字篠林3149-9	D	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	免振調査	H28.4.11	H28.5.20	598m <sup>2</sup>	3	第187~7次調査
5 奈宮字笛川1055-1	A	個人	建物解体	H28.4.26	H28.5.6	7棟	4	
6 奈宮字西加須2773-1、2771-1	A	個人	建物解体	H28.5.11	H28.5.24	3棟	4	
7 奈宮字笛川1055-1	A	個人	住宅建築	H28.5.18	H28.6.17	18426m <sup>2</sup>	4	
8 竹川字東裏354-6	A	個人	浄化槽埋設	H28.5.24	H28.6.17	1基	4	第187~8次調査
9 奈宮字西加須地内、奈宮字下園2811	B	中創電力㈱松阪営業所	電柱・支柱撤去	H28.6.1	H28.6.13	5本、3棟	1	
10 奈宮字木葉山129-6、130-6	A	個人	建物解体	H28.6.8	H28.6.13	1棟	4	
11 奈宮字尾山23276-13	A	個人	浄化槽埋設	H28.6.9	H28.7.15	1基	4	第187~5次調査
12 奈宮字種林31916	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	Wi-Fi整備	H28.6.9	H28.6.15	1基	1	
13 奈宮字木葉山129-6、130-6	A	個人	住宅建築	H28.6.14	H28.7.15	11456m <sup>2</sup>	4	
14 奈宮字西前津2034番1ほか2筆	A	個人	住宅増築	H28.6.16	H28.7.15	795m <sup>2</sup>	2	第187~6次調査
15 奈宮字笛川12342-4	B	近畿日本鉄道㈱	踏切改修	H28.6.16	H28.6.30	769m <sup>2</sup>	3	
16 竹川字吉見559-62	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	室内看板設置	H28.7.6	H28.7.25	1基	1	
17 奈宮字西加須2775	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	カラーコンクリート舗装	H28.7.11	H28.7.26	70.8m <sup>2</sup>	1	
18 奈宮字御辻2882-2	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	室内看板設置	H28.7.12	H28.7.29	1基	1	
19 竹川字南裏241	A	個人	住宅建築	H28.7.12	H28.8.23	72.87m <sup>2</sup>	4	第187~14次調査
20 奈宮字笛川2396、2396-1	A	個人	建物解体	H28.7.12	H28.7.29	3棟	4	
21 奈宮字笛川2396番1	A	個人	住宅建築	H28.7.20	H28.8.23	8425m <sup>2</sup>	4	第187~9次調査
22 奈宮字牛里裏内	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	道路案内標識建設	H28.7.22	H28.8.9	1基	3	第187~10次調査
23 奈宮地内(飛道伊勢小便松駆線)	B	中創電力㈱松阪営業所	電柱建設	H28.8.7	H28.9.20	1本	3	
24 奈宮字西前津2027-1	A	個人	建物解体	H28.8.8	H28.9.20	1棟	4	
25 奈宮字御辻2952、2939	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	仮設プレハブ設置	H28.9.28	H28.10.19	2棟	1	
26 竹川字東裏363-3	A	個人	浄化槽埋設	H28.10.6	H28.11.18	1基	4	
27 竹川字牛宿428-2、3	D	三重県(奈宮歴史博物館)	免振調査	H28.10.14	H28.12.9	127m <sup>2</sup>	2	第189次調査
28 奈宮字西加須、東殿、櫻林、堺山地内	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	道路舗装	H28.10.25	H28.11.11	L=800m	1・2・3	
29 奈宮字種林3207-1ほか2筆	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	電線埋設	H28.10.25	H28.11.11	L=512m	1	第187~12次調査
30 奈宮字鶴池337-1、-2	A	個人	土作	H28.10.25	H28.11.29	429.93m <sup>2</sup>	3	第187~12次調査
31 奈宮字牛裏331	A	個人	建物解体	H28.10.25	H28.11.11	3棟	4	
32 奈宮字牛裏324	A	個人	建物解体	H28.10.28	H28.11.11	2棟	4	
33 奈宮字西前津2040-18	A	個人	住宅新築	H28.10.31	H28.12.9	1棟	3	
34 奈宮字宮ノ町内地内、奈宮字下園29.5 ほか1筆	B	中創電力㈱松阪営業所	電柱・支柱撤去	H28.10.31	H28.11.18	4本、4棟	1	
35 奈宮字椿林内地	B	中創電力㈱松阪営業所	支柱新設	H28.10.31	H28.11.18	1条	1	
36 奈宮字東殿2903-1ほか3筆	B	中創電力㈱松阪営業所	電柱・支柱・支線新設	H28.10.31	H28.11.18	2本、2条	1	
37 奈宮字西・臨川内地内、竹川字中垣内地内	B	三重県知事 鈴木 美敬	倒木付替等	H28.11.15	H29.1.27	L=288.6m	3	第187~15次調査
38 奈宮字鶴池341-1	B	三重県知事 鈴木 美敬	埋設業者用水管撤去	H28.11.21	H28.12.8	L=60m	3	
39 奈宮字東殿内地内	B	明和町 (まちづくり課)	道路改修	H28.11.21	H28.12.8	7m <sup>2</sup>	3	
40 奈宮字牛裏331	A	個人	建物建築	H28.12.1	H29.1.27	67.52m <sup>2</sup>	4	
41 竹川字中垣446-3	B	近畿日本鉄道㈱	信号機柱新設	H28.12.1	H28.12.16	1基	3	
42 奈宮字種林3162-2、3149-9	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	公園整備	H28.12.5	H29.1.27	336m <sup>2</sup>	3	
43 竹川字綾戸715番1、729番3	B	西日本電信電話㈱三重支店	電話柱等新設・撤去	H28.12.5	H28.12.16	7本、2条	3	
44 竹川字花園、戸院内地内	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	散策路整備	H28.12.15	H29.1.27	2・3		
45 奈宮字東殿2910-4	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	仮設プレハブ設置	H29.1.5	H29.2.10	3棟	1	
46 奈宮字銀治山2733	B	中町役場会長	仮設ゴミ集積所設置	H29.1.18	H29.2.6	1棟	4	
47 奈宮字牛裏324	A	個人	住宅建築	H29.1.31	H29.3.10	90.26m <sup>2</sup>	4	第187~16次
48 奈宮字コウロ4055-3	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	排水路改修	H29.2.1	H29.2.23	L=33m	3	
49 奈宮字牛裏3030-3	A	個人	建物解体	H29.2.14	H29.2.28	1棟	4	
50 奈宮字種林3134番2ほか3筆	B	西日本電信電話㈱三重支店	電話柱等新設・撤去	H29.2.17	H29.3.2	2本、4条	1	
51 竹川字綾戸735	C	明和町日本通運 活用施設協議会	看板設置	H29.2.28	H29.3.9	1基	3	
52 奈宮字西前津2046-1ほか21筆	C	明和町 (奈宮跡・文化観光課)	史跡整備	H29.3.10	H29.4.21	1		
53 奈宮字笛川1224-1ほか先 奈宮字種林3134番地内	B	西日本電信電話㈱三重支店	支柱柱建設	H29.3.31	H29.4.14	1本	3	

第5表 平成28年度現状変更等許可申請一覧



写真図版1 第187-1次調査区全景（北から）



写真図版2 第187-1次調査区南側（北から）



写真図版3 第187-2次調査区全景（東から）



写真図版4 第187-3次調査区全景（南から）



写真図版5 第187-4次調査区全景（北西から）



写真図版6 第187-5次調査区全景（西から）



写真図版7 第187-6次調査北側調査区（南から）



写真図版8 同 SH10885カマド出土状況



写真図版9 第187-6次調査南側調査区（北から）



写真図版10 同 S D 10899~10901等掘削状況



写真図版11 第187-7次調査西側調査区全景（北から）



写真図版12 第187-7次調査東側調査区全景（東から）



写真図版13 第187-8次調査区全景（西から）



写真図版14 第187-9次調査区（東から）



写真図版15 第187-10次調査区全景（南から）



写真図版16 第187-11次調査東側調査区（南から）



写真図版17 第187-12次調査区全景（北から）



写真図版18 第187-12次調査区南側（北から）



写真図版19 第187-13次調査北側調査区（南から）



写真図版20 第187-14次調査区全景（西から）



写真図版21 第187-15次調査区全景（北から）



写真図版22 第187-16次調査区全景（東から）



写真図版23 第187-17次調査区東半（南から）

## 報 告 書 抄 錄

---

史跡斎宮跡  
平成28年度  
現状変更緊急発掘調査報告

平成30(2018)年3月20日

編集 斎宮歴史博物館  
発行 明和町  
印刷 光出版印刷株式会社

---